

AMIRA SUP 5.0

Software Update Package SUP 5.0.26

RELEASENOTES

Date: June 27th, 2017



新機能と変更の紹介

§ Multicam improvements

デュアル6G出力 (4K UHD 60P)、マルチカムモードでロード及び修正できるLook、RCPでEFレンズのアイリスコントロールできる、HD-SDIメタデータの中に、リターンスイッチコマンド、SYNCとゲンロックの向上

§ ARRI Look Library

広範囲にわたる87個の高品質Look集

§ Look files for HDR workflows

PQとHLG 2つのモニター用ルックファイルをプリインストール

§ ARRI Master Grips support

ENGレンズの3軸コントロール、EFレンズのフォーカス、アイリス、コントロール、マスターグリップ特有のユーザーボタン

§ 1.3x anamorphic desqueeze in preview

1.3xアナモフィックレンズ対応

§ Camera Access Protocol (CAP)

APIベースのIPを通してのルックパラメーターコントロール

§ Monitoring and display improvements

ARRI Look File V2はRec 2020カラースペースをサポート、デュアル422 3G UHD, デュアル422 6G UHD, 3G Level A/Bをサポート, Stelite HD5-ARRIでプレイバックとユーザーセットアップの制御、プレイバックは最高512倍速シャトル

§ Improved timecode handling

ジャムシンクモードの追加 オフスピード撮影後のフリーランタイムコードの復旧

§ Extended support for EF lenses

EFレンズの幅広い設定の対応、内臓スタビライザー、フォーカス、アイリスコントロール

§ Advanced user setup handling

パラメータブロックを使用してカメラ内に複合的にユーザーセットアップをストア

§ WiFi infrastructure mode

プロダクションネットワークにカメラを接続

§ Miscellaneous improvements

シンプルな中国語のユーザーインターフェイス、レコーディング又はプレイバック中のフレーム保存、OLEDのスイッチオフの選択、セッティングベースのユーザーボタンリスト

SUP5.0で修正された問題点

以前のSUPバージョンからのknown issueは、SUP5で修正されました

- | いくつかのモニターで3G HD-SDIの出力にタイムコードが出力されない
- | 4K UHD, 3.2K S16モードでNTSC フレームレートがSDI1出力にサポートされていない
- | 6G UHD-SDI出力にオーディオが重畳されない
- | 6G UHD-SDI出力にカラーバーが出ない
- | カラーバースイッチオフの後、SDIにオーディオが乗らない
- | リターンインプットが機能している時に、SDIにオーディオが重畳しない
- | 59.94又は60でインターレースのクリップを再生していて、ポーズ/プレイの時SDI出力に信号が出ない
- | プレイバックモードで速いスピードでリストを見ていると、ビューファインダーとSDI出力で、間違ったクリップを表示する
- | 3.2K, 4K UHD, S16モードはリターン信号は機能しない
- | RCP-1500でシャッターが機能しない
- | RCP-1500でオートアイリスが機能しない
- | リブート後、オートアイリスは機能しない
- | 解像度、コーデック変更後、オートアイリスは機能しない
- | いくつかのシグマレンズに互換性の問題あり
- | EFレンズの内臓スタビライザーは未対応
- | HD-SDIゲンロックでフレームレートを変更するとゲンロックが外れる
- | ゲンロック同期の精度はジッターがある
- | ゼブラとファルスカラーはプレイバック中は無効
- | ゼブラとアパーチャピーキングを両方入れるとファルスエキスポージャー表示になる
- | プレイバック後のタイムコードはシフトする可能性がある
- | フレームグラブは、スタンバイモードのみで機能する
- | UPM(User Pixel Mask)は3.2K/4K UHDライセンスが必要
- | 3.2Kモードでビューファインダーはスケーリングノイズがある

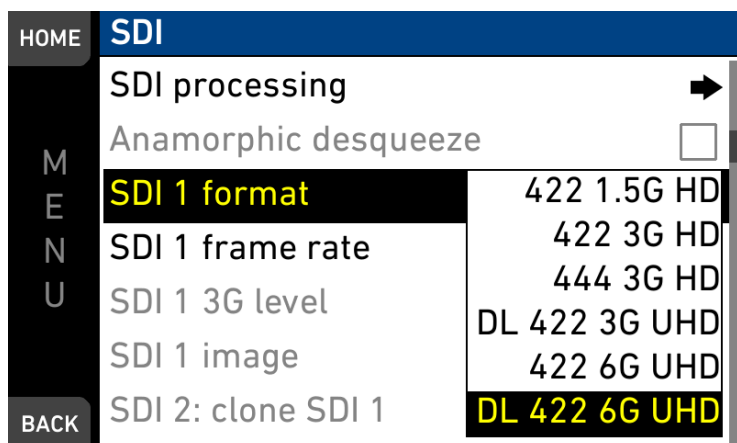
以前のSUPから変更

Lookの設定でLOOK>CONFIG、“Gamma”は“Processing”に名前を変更
EFレンズのアイリスコントロールは、1/8 から 1/4 ステップに変更

新機能 SUP 5.0

マルチカムモード 機能向上

HDI出力がデュアル6G UHD SDIをサポートし、4K UHD 最大60fps 外部収録するのに十分なデータレートに改善。マルチカムモードで3D LUTで作成したラットをカメラにロードし使用することができる。作品のため個々のラットを事前に作成、カメラにロードしRCPで微調整することができます。



MENU > Monitoring > SDI > SDI 1/2 format

その他、EFレンズをRCPでアイリスコントロール用に改良されました。
HD-SDIメタデータリターンスイッチコマンドや、同期、ゲンロックの向上

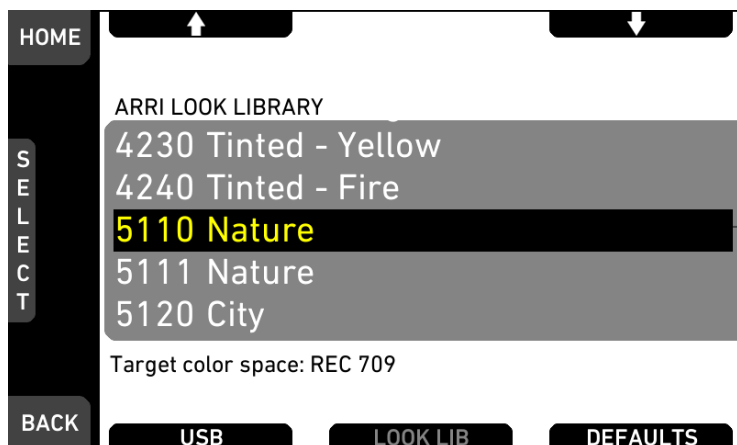
ARRI ルックライブラリー

ARRIは高品質なルックを実現するための刺激的で新しい方法を紹介します。

特別仕立てのルックを撮影前に用意する時間的、予算的な余裕がなくとも、ARRI ルック ライブラリーは撮影現場でのルックマネージメントを、すべてのプロダクションが手の届くものにします。

各々3つの強さで87のルックスを提供し、ARRI ルックライブラリーは、巨大な種類の異なる撮影シナリオの要求を満たします。ルックスは、9つのグループのテーマがあります。

: アプリケーション、白黒、対照、環境、フィルム、期間、季節、スペシャル、色調



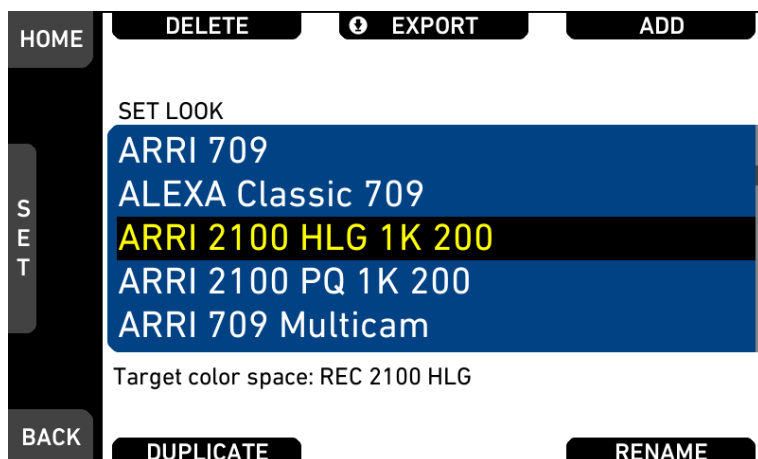
HOME > LOOK > EDIT > ADD > LOOK LIB

新 HDR Lookファイル

ARRI 2100 PQ 1K 200: PQ規格(SMPTE 2084, ITU-R BT.2100)モニター用、PQレベル75%で最高ルミナンス1000cd/m²、ホワイトはルミナンス200cd/m²で現れる。

ARRI 2100 HLG 1K 200: HLG規格(Hybrid Log Gamma, ITU-R BT.2100)モニター用、モニターは最高1000cd/m²あると想定する場合、映像は、PQルックがPQ用モニターで使われるのと同じように見える。

HDRルックはモニター用として使用し、収録はLog Cで収録することを推奨します。



HOME > LOOK > EDIT

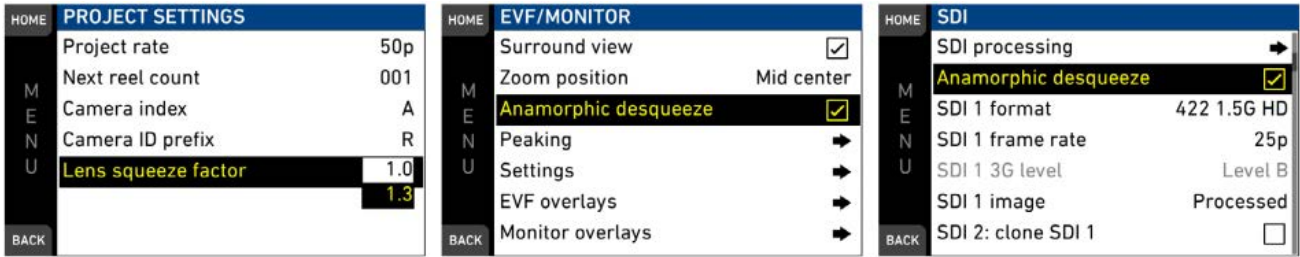
ARRI マスターグリップ



ARRIマスターグリップの機能が拡張されました。ENGレンズの3軸コントロール、ユーザーボタンの設定。EFマウントレンズのフォーカス、アイリスを正確に合わせることで、マスターグリップを使うことは、重さとコストのためにより小さいEFレンズを要求するオペレーターのためのより興味深いソリューションを提供します。

1.3x アナモフィック ディスクイーズ

MVF-1, CCP-1, SDI出力の1.5G, 3Gは、1.3xのアナモフィックレンズのディスクイーズに対応しました。



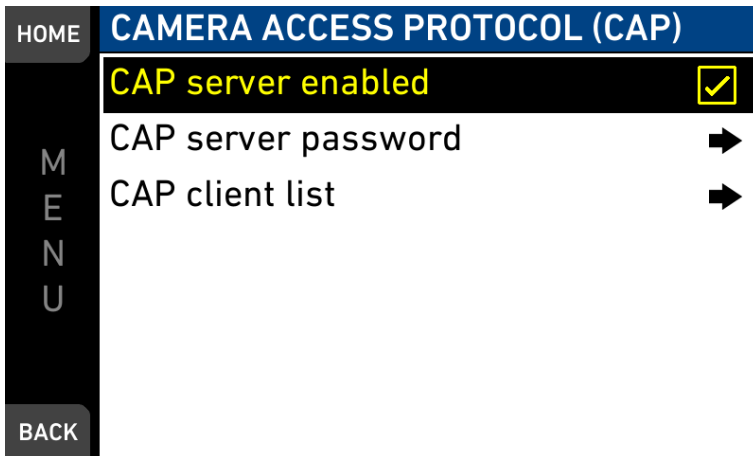
MENU > Recording > Project settings > Lens squeeze factor

MENU > Monitoring > EVF/Monitor > Anamorphic desqueeze

MENU > Monitoring > SDI > Anamorphic desqueeze

カメラアクセスプロトコル (CAP)

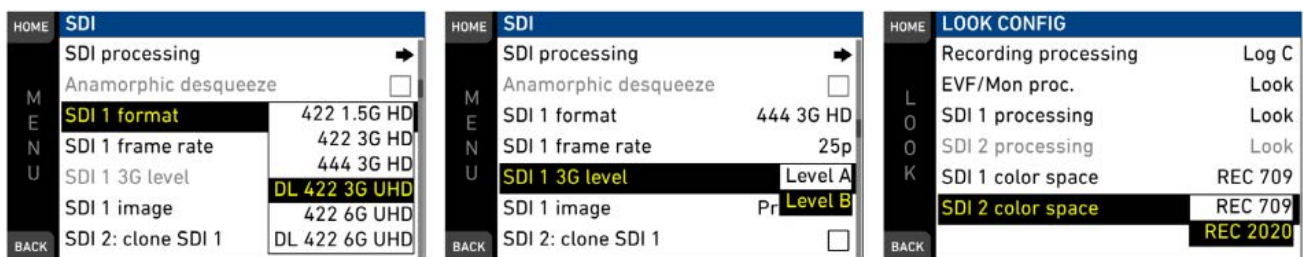
カメラアクセスプロトコルはAPI(Ethernet and WiFi)ベースのIPを通してルックのパラメータの修正ができる



MENU > System > Camera access protocol (CAP)

モニタリングと表示の向上

ARRI Look File V2はRec 2020カラースペースをサポート、デュアル422 3G UHD, デュアル422 6G UHD, 3G Level A/Bをサポート, Stelite HD5-ARRIでプレイバックとユーザーセットアップをコントロール、プレイバックは最高512倍速シャトル



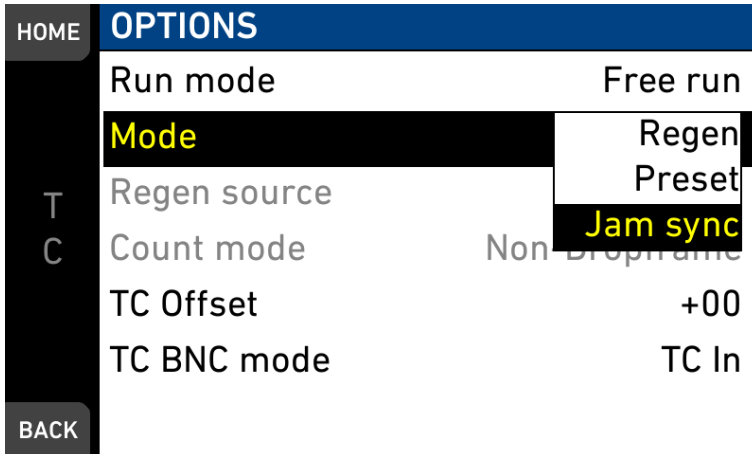
MENU > Monitoring > SDI > SDI 1/2 format MENU > Monitoring > SDI > SDI 1/2 3G Level

HOME > LOOK > CONFIG > SDI 1/2 color space

タイムコード、取扱いの向上

新しいジャムシンクモードは、外部ソースからのタイムコードを正確にサンプリングしない。そのうえで、信号を分析し、カメラの内部発信機を外部ソースに同調させます。重要なことに、これはズレの可能性を最小限にします。

ALEXA(MINIを除く)と異なることに気づいてください。分析し、調整するジャムシンクの処理は、最大30秒かかります。ジャムシンクされたタイムコードのズレは8時間以上で1フレーム以下です。



HOME > TC > OPTIONS > Mode

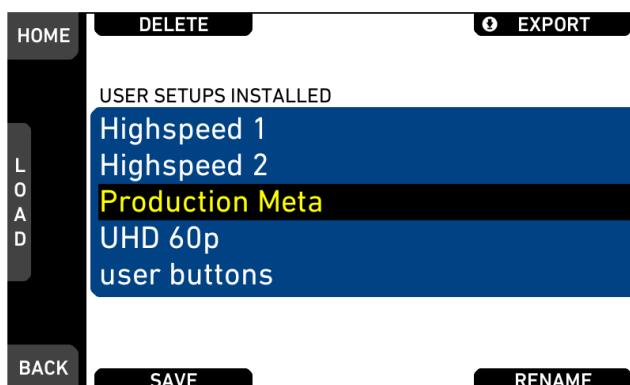
EFレンズサポートの拡張

EFレンズのフォーカスとアイリスのコントロール、内臓スタビライザーに対応しました。

進歩したユーザーセットアップの取扱い

1つのファイルにすべてのユーザー設定をストアしていたユーザーセットアップは、機能を拡張しました。5つのパラメーターグループ(General, Format, Scene, Lens, User)を使用し、部分的な設定を可能にしました。もっと柔軟に、もっと特殊な制御ができるようになりました。

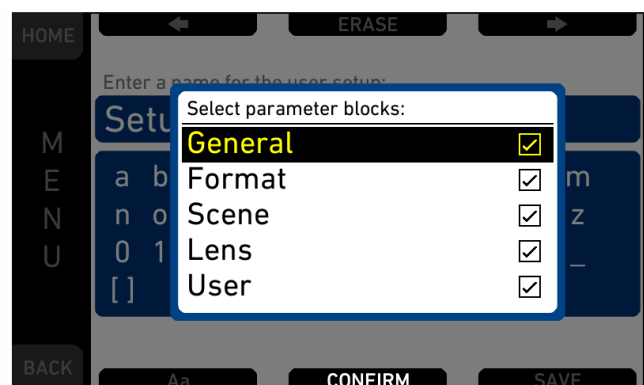
複数の異なった設定がカメラ内にストアでき、USBメモリーは設定を移す時、必要とするだけになりました。



MENU > Setup > User setups installed

MENU > Setup > User setups installed > SAVE

MENU > Setup > User setups on USB > SAVE



WiFi インストラクチャーモード

このWiFiは、ネットワークインフラを基盤にした外部ハブによって形成されたWiFiネットワークに接続できます。一つのデバイスで複数のカメラにアクセスできます。ネットワークの設定は、QRコードで行えます。



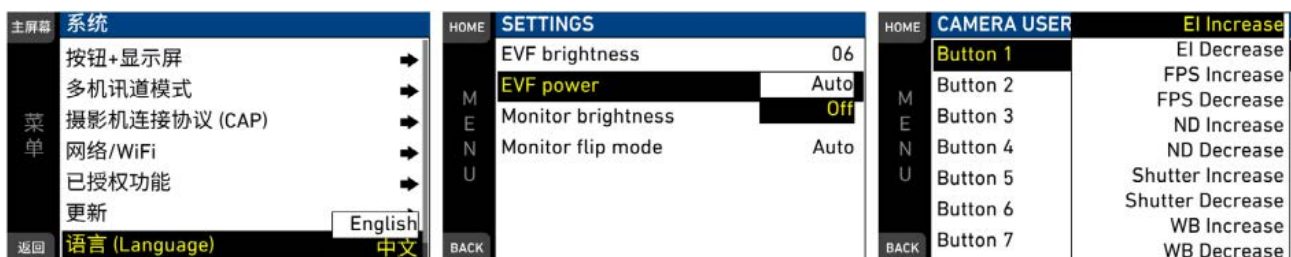
MENU > System > Network/WiFi > WiFi mode

MENU > System > Network/WiFi > WiFi network

MENU > System > Network/WiFi > WiFi network > Scan QR code

各種機能向上

シンプルな中国語のユーザーインターフェイス、収録中でも再生中でもフレームグラブができる。MVF-1のOLEDをスイッチオフできる。ユーザーボタン用の EI、センサーfps、NDフィルター、シャッター、ホワイトバランスのような基本的な設定のリスト



MENU > System > Language

MENU > Monitoring > EVF/Monitor > Settings > EVF power

MENU > User buttons

Known Issues

アクセサリ

ブルートゥースデバイスのブートアップ後の再接続

カメラをリポートした時、オーディオモニターのためのいくつかのブルートゥースデバイスはいつも自動的に再接続しない。手動で再接続して下さい。

Canon HJ18 B4 lensでレコード スタート/ストップ

Canon HJ18 B4レンズで、ARRI B4マウントとヒロセケーブルで接続していて、Rec/Stopが機能しない場合は、レンズの[Reset all]を行ってください。

AMIRに装着したチタニウム PL LDS マウント

AMIRAにLBUS付 PL LDSマウントを装着しても、LBUSは機能しません

AMIRAとALEXA MINIでのUSBデバイス

USBメモリー又はペンドライブのみ対応、ハードドライブ等は認識しない。

オーディオ

AES3 接続時のバッテリー交換

AES3がオーディオミキサーに接続されてる状態でバッテリーを交換するとAMIRのオーディオ機能が正常に初期化されない。[Switch in undefined position]のエラーメッセージが表示される。この場合、カメラをリポートしてください。この問題を避けるために、カメラのバッテリーを交換する前に、オーディオミキサーの電源を切ってください。

ヘッドホン出力をオーディオミキサーに接続

ヘッドホン出力をオーディオ収録のモニタリングのためにオーディオミキサーに接続すると、オーディオボードが損傷します。もし、ヘッドホン出力の最大音量が小さいと思ったら、これはこの損傷を示しているかもしれません。

ブートダウン時突発音の可能性

カメラの電源を落としている間に、ヘッドホンをしていると、突然大きな音が鳴る可能性があるので注意してください。

オーディオLINE入力

新しいオーディオ基盤(OAU2)が入っていないカメラは、最高+8dBuの信号を許容します。クリッピングを避けるために、LINE入力が+8dBuをこえないように確認して下さい。高いレベルの入力は、外部減衰器を使用するか、減衰された信号を入力してください。OAU2の基板が入ったカメラは、LINE入力レベルをメニューから+24dBuにすることができます。

フレームグラフ

インターレース S16, HD 再生ポーズ時フレームグラフできない

フレームグラフするためにプレイ 巻き戻しをして、適切な位置でフレームグラフしてください。

インプット/アウトプット

EVF zoom時1.3xアナモフィックディスクイーズはできない

EVFでzoomしている時は、1.3xアナモフィックディスクイーズは機能しません。

UHD SDI出力時は1.3xアナモフィックディスクイーズはできない

UHD SDI出力、422 6G DL, 422 6G, 422 3G DLの時、1.3xアナモフィックディスクイーズは機能しません。

リターン映像をSDIとEVF/Monitorにオーバーレイ

SDIとEVF/Monitorにオーバーレイさせる状態で、ライブ映像からリターン映像に切り替えてもすぐに切り替わらない。

SDI出力がクローンの時のリターン映像

SDI出力をクローンに設定しているとき、リターン映像をオーバーレイさせると一瞬映像が出なくなる。

HD-SDIゲンロックはHD-SDI 422と3G信号に限る

HD-SDI 444 3Gと422 6G 信号は未対応。

DL 6GHG-SDI出力性能

DL 422 6G SDI出力が、最良の性能を発揮するためには、新しいSDIボードIOAX Rev.Hにアップグレードすることを推奨します。

同期源に接続している時SDI出力は、一瞬映像無くなる

ゲンロック又はタイムコード源に接続すると、SDI出力は再同期する。再同期している間、一時映像が出ないことがあります。

3.2K 1.3x アナモフィック ディスクイーズ

3.2K収録モードで1.3xアナモフィックディスクイーズすると、EVF/MonitorとSDI出力に、スケーリングノイズが出る。ノイズはモニター出力だけで、収録には影響ありません。

MPEG-2収録モードでは、psf,インターレース信号は、リターン信号として入力できない

収録モードがMPEG-2の時、リターン信号がpsf,インターレース信号は、サポートしていません。

タイムコード同期させている時のSDI出力

タイムコードで同期させている時、SDI出力は同期源に正確に同期しません。SDI出力を正確に同期するには、3値ゲンロック信号を使用してください。

カメラからのタイムコード出力には同期しない

カメラからのタイムコード出力を他のカメラのタイムコードに入力しても二台のカメラは同期しません。外部タイムコード信号を、使用してください。

HD-SDI 3G信号に同期

SDI 444 3G Level A 信号は、同期信号としてサポートしていません。

6Gに設定時SDI出力は、一時的映像断

SDI出力を6Gに変更した時、又は6Gから他のフォーマットにした時、SDI出力は、一時的に映像断になる。

メディア

ALEXA XTやSXTでフォーマットされたCFast2.0カードは、ALEXA Mini/AMIRAで使用できない

ALEXAカメラでフォーマットしたCFast2.0カードはALEXA Mini/AMIRAで、再度イレースしてください。

SUP4.0以上でCFast2.0カードを使用するには使用前にイレース必要

SUP4.0以上のカメラでイレースしたカード以外、SUP4.0以上のカメラでは使用できません。以前のSUPで使用したカードはSUP4.0以上のカメラで再度イレースしてください。

メタデータ

SDIレンズメタデータとARRIRAWクリップ内は常にメーター表示

SDI信号に重畳されるレンズメタデータとARRIRAW MXF内に入るレンズデータは、レンズマッピングやLDSレンズにかかわらず、常にメーター表示です。

マルチカム

RCOで映像のパラメーターを修正した時、4KUHD 50/60pでノイズが発生する

RCPで映像パラメーターを修正すると画面最上部にスプラッシュのようなノイズが発生します。アイリス、ホワイトバランス、NDフィルター、ゲイン、ディテール、シャッター、などの変更は問題ありません。

RCP-1500でコールするとタリーランプが消灯しなくなる

RCP-1500のコールボタンを繰り返し断続的に押していると、タリーランプがロックされ消えなくなる。

プレイバック

プレイバック時、ピーキングは機能しない

Please disable peaking manually in case you do not want peaking during playback.

プレイバック中ピーキングが必要ないのであれば、ピーキングを切ってください。

HDR Lookで収録したクリップはMVF/EVFで正確に表示しない

HDR Lookで収録されたクリップの再生は、MVF/EVFでは正確に再生されません。モニターだけの問題で、収録したものには影響ありません。HDR Lookを収録することは推奨しません。

インターレースで収録したクリップをポーズ状態にすると垂直解像度が半分に

これは、SDI出力でプレイバックをモニターしている時に気が付く程度です。

インタレース収録したクリップを、SDI出力の設定をインタレースにしていないと縦に細かい揺れが起きる

SDI出力のプレイバック映像だけの問題で収録したものは影響ありません。収録の設定に合わせてください。

ノンリニアオーディオ プロジェクトレート59.94

プロジェクトフレームレート59.94PでProResクリップを再生する時、SDIとヘッドホンのオーディオはノンリニアではない。

レコーディング

レコード中の E.I W.B の変更

レコーディング中に、感度やホワイトバランスを変えることは可能ですが、1つのフレームに二つの異なる特徴がメタデータに含まれます。

最大クリップサイズのエラーメッセージ

非常にまれなケースで、“Recording stopped-maximum clip size reached”と表示され、収録が止まります。これは非常に細かいものをProRes LTのようなデータレートの低いモードで撮影した時におきます。

"STRONG" mode のImage denoising

Image denoisingのSTRONGは早い動きに影響を与えます。使用する前にテストしてください

インターバル収録で正しくない残時間が表示される

容量の多いCFast2.0カードでインターバル収録をした時、間違った残り時間を表示する。

MPEG2収録モード時の残時間表示

MPEG2収録モードでの収録可能時間の表示は、実際の収録可能時間より少ないかもしれません。

CFast2.0カードのリールの数は、制限がある

CFast2.0カードの収録はProRes、ARRI RAW MXFで1枚当たり15リールまでです。MPEG-2 HD 422は、2リールまでです。

2K収録時、ND-SDI出力のスケーリング品質の制約

モニターとしては十分な画質と考えられるが、2K解像度からHDにダウンスケールしているため、SDI出力をマスター収録する画質ではない。HD-SDI出力をマスター収録する時は、収録フォーマットをHDにしてください。

1枚のCFast2.0カードでクリップ数400に制限

一枚のカードに400クリップ以上の収録はできません。通告なしに収録ができなくなります。

CFast2.0カードに収録中に電源が切れた

収録中にカードを取り出したりカメラがカードに書き込んでいる途中で突然電源が切れた場合は、フォーマットが必要です。ERRORを表示する。カードの損傷を避ける、又は、次の収録のために警告に従ってください。もし何も傾向がない場合は、ARRIサービスに連絡してください。

SanDisk 120GB or 128GB カードで 収録ハイデータレート Slot B 高温

SanDisk 120GB または、128GB カードで、40 以上の気温が高い状態で、ProRes 4444 200fpsに近いハイフレームレート、Bスロットで収録している時、最大収録時間に制限が出る。

上記の条件が満たされるなら、長時間の収録には、スロットAを使用してください。

SanDisk 120GB and 60GB カード

大変まれなケースで、SanDisk 60GBまたは、120GBカードを使用している時、

“Write failure on recording card(Slot A)”とメッセージが出て収録がとまってしまう。

SanDisk CFast 60GB フレームレート制限

SanDisk 60GB カードは、最大フレームレートが制限されます。

ProRes 4444 収録 2K: 120 fps / ProRes 4444 収録 HD: 137 fps / ProRes 422HQ 収録 2K: 181 fps.

プレイバックからの収録スタート

プレイバックから直接収録スタートはできない。このような場合、2回レコードボタンを押してください。

MPEG又はARRIRAWモードでのプレイバックからの収録スタート

プレイバックから直接、MPEG又は、ARRI RAW収録スタートすると“Recording Stopped due to FPGA failure.Please reboot camera.”とエラーメッセージが出て収録できません。収録スタートする前にプレイバックモードから出てください。

垂直方向のミラーリングは、メタデータで提供

ミラーリングの情報は、クイックタイムファイルのメタデータにストアされます。MPEG-2 HD MXFファイルでは、ミラーリング情報はメタデータに対応していません。再生時にミラーリングしません。

タイムコード

タイムコードを使用して2台のカメラを同期

タイムコードモード[regen]で、タイムコード同期で2台のカメラを同期させている時、30fpsより上のプロジェクトレートで、いくつかの収録したクリップに、1フレームのズレが生じる。

JAM SYNCモードからREGENモードに切り替え

[Jam-sync]から[Regen]モードに切り替えると“LTC signal is missing”と警告が出る。

この時は一度[Preset]にしてから[Regen]にしてください。

LTCでのセンサー同期は、正確なタイムコードジェネレータが必要

カメラをLTCタイムコード信号でゲンロックさせる場合、ジッターのない正確なジェネレーターが要求される。一般的なLTCタイムコード源として問題ないデバイスがLTDゲンロック源としては、動作しないかもしれない。

Update

LBUSの機器はAMIRAでは使用できない

LBUS機器はAMIRAでは使用できません。

Usability

プレーバック中のCAPサーバーからのフレームグラフ

CAPを通してのプレイバック中のフレームグラフは、ライブ映像をフレームグラフします。

ファイルネームは28文字まで

ファイルネームは28文字以上は使用できません。

HD-SDIリターンインの入力は、15GHD-SDIのみ

リターン入力は、3G 6G または12Gはサポートしていません。

ライセンスはカメラメニューから削除できる

インストールされたライセンスはカメラメニューから削除できます。対応した機能も削除されます。

ライセンスを再インストールするには、個々のカメラに適合したライセンスキーが必要です。カメラと一緒に入っているUSBメモリーにライセンスキーが入っています。

ミラーイメージのパーティカルはフレームグラフには、適用されない

ミラーイメージを設定している時、フレームグラフには水平のフリップしか適用されない。

カメラでのMPEG-2再生

稀なケースで、MPEG-2のクリップを再生すると、中断することがあります。パソコン上で確認してみてください。

タイムコードジャムシンクとゲンロックシンクの同時使用は、サポートしていない

タイムコードのジャムシンクモードまたは、ゲンロックを使用すると、カメラは、供給元の時間に一致した内部オシレータに合致しています。したがって、タイムコードジャムシンクとゲンロック組み合わせ使用はできません。

Starite-HD5ARRIはメニュー画面が出ていなくても設定変更、録画をする

もし、Starlite-HD5ARRIがカメラのSDI出力[CLEAN]で繋いでいたら、気が付かずに設定が変更されているかも。SDI出力が[PROCESSED]になっているかを確認してください。

出力processingがALEXA Classic 709の時波形exposure toolは無通知で解除される

HDRのコンテンツを撮影中は、ALEXA Classic 709出力に設定すると波形 exposure toolは機能しません。無通知で機能は解除されます。MVF-1のユーザーボタン、EXPボタンも効きません。

アップデートされたEFマウントはSUP4.0と互換性なし

カメラのソフトウェア-SUP4.0に戻しても、EFマウントのソフトウェアをダウングレードしない。EFマウントをSUP5.0にアップデートしてしまったものは、機能しない。

以前のSUPで制作作成したセットアップファイルは、SUP5.0と互換性なし

以前のSUPの時に作成したセットアップファイルは、SUP5.0のカメラではロードできません。新しく作成する必要があります。

WBユーザーボタンincrease/decreaseはAuto WB表記をスキップ

ユーザーボタンはホワイトバランス プリセット リストのAuto WBの表記をスキップします。

EVF/Monitor gammaがLOG CにセットされるとZebraは機能しません

EVF/MonitorがLOG CにセットされるとZebraは機能しません。Log Cの時は波形モニタが[false color]で露出値をチェックしてください。

ビューファインダー

MVF-1とCCP-1

MVF-1とCCP-1をデジーチェーンでつなぐ前に、MVF-1をカメラに繋いでSUP5.0にアップデートしてください。

長時間ビューファインダーの接近センサーをカバーしないで

常時MVF-1の接近センサーを塞いでいるとOLEDが焼きつき戻らなくなる。もしEVFを覆う必要があるなら、EVF power setting MENU>Monitoring>EVF/MONITOR>Setting>EVF PowerでEVF OLEDの機能を切ってください。

シリアルナンバー2150までのMVF-1は、改良されていないアイピース

ビューファインダーは時々スイッチオンにならない。適した角度でMVFに近づかないと正確に作動しない。

HE-6ヒーターアイカップは互換性がない

HE-6ヒーターアイカップを使用中は、接近センサーがOLEDを作動させている状態になります。

このため、電源をオフにできず、ディスプレイ上の表示が焼き付くことがあります。

これを回避するには、新しいHE-7ヒーターアイカップを使用してください。

シリアルナンバー2151以降のすべてのMVF-1に互換性があります。

低いフレームレートでZOOM または、SURROUND VIEW

5fpsより低いフレームレートで、Zoomまたは、Surround viewを使用するとMVF-1/Monitorの映像が一瞬映像が切れる。